

デーリー東北  
2018年(平成30年)12月21日(金曜日)(2)

# 氷上を自在に走行

八戸工業大の武藤一夫准教授(63)の研究室が、氷上を自在に走行できる1人乗り車両を開発した。タグボートなどに使われる「トロコイド式推進機構」を応用して昨年開発した走行車にアイスホッケー靴の刃を装着するなどして改良。輸送手段や福祉車両、遊具などとして凍結した湖や川での活用を想定し、武藤准教授は「寒冷地の移動や輸送の

## 八工大・武藤准教授ら開発

手段として役立つそう」とアピールしている。同研究室は2017年度、タグボートなどに使われるプロペラ型推進器の仕組みを陸上移動に応用した走行車を手掛けた。車体の下に取り付けられた六つある車輪のうち、四つが回転して車体が動く仕組みで、操縦かん一本で操作可能。大人1人を乗せて移動できることを確認した。



## 1人乗り車両 車輪代わりにスケート刃

氷上使用について研究に取り組んできた本年度は、陸上向けの車輪が氷で滑りやすいため、同大のアイスホッケー部から提供を受けた不要なアイスホッケー靴の刃を車輪代わりに加工し、取り付けたという。

19日深夜、八戸市のテクノルアイスパークで行った動作確認では直線移動をはじめ、8の字走行や直角に曲がるのが可能なことを確かめた。

現場に立ち会った武藤准教授は「推進力が高く、荷物運搬の際の動力源として有効だと感じた」と強調。開発に携わった同大機械工学科4年の秋山真太郎さん(22)は「予想以上にうまく走ってくれた。今後は陸上、氷上どちらでも走行できるような機能を開発していきたい」と話した。

今後は陸上用、氷上用とも開発を続け、乗車人数を増やしたり、動力源としての能力を向上させたりする研究を進める方針という。

(里村静)

「トロコイド式走行車」の氷上での動作確認を行う武藤一夫准教授(左)

19日夜、テクノルアイスパーク八戸